

高齢者虐待は どうして起こるのでしょうか？

● 家庭内における高齢者虐待の実態 ●

「家庭内における高齢者虐待に関する調査」(平成15年度、財団法人医療経済研究機構)によると、高齢者虐待は様々な要因が重なり合っていることがわかります。虐待を受けていた高齢者は75歳以上の後期高齢者が80%以上を占めており、要介護度をみるとそのうちの50%以上が要介護3以上の方です。また、認知症の症状が見られる高齢者が60%程度を占めています。また、虐待を受けている人の10人に1人が生命に関わる危険な状態であり、60%以上が心身の健康に悪影響がある状態でした。

虐待の種類別高齢者虐待発生の要因					
	1位	2位	3位	4位	5位
身体的虐待	虐待者の介護疲れ [49.6%]	虐待者の性格や人格 [48.5%]	高齢者本人の認知症による言動の混乱 [46.5%]	高齢者本人と虐待者の人間関係 [42.0%]	高齢者本人の性格や人格 [36.0%]
心理的虐待	虐待者の性格や人格 [55.3%]	高齢者本人と虐待者の人間関係 [54.8%]	高齢者本人の性格や人格 [43.5%]	虐待者の介護疲れ [38.3%]	高齢者本人の認知症による言動の混乱 [38.0%]
経済的虐待	虐待者の性格や人格 [64.0%]	高齢者本人と虐待者の人間関係 [55.5%]	経済的困窮 [47.9%]	高齢者本人の性格や人格 [39.6%]	経済的利害関係 [32.4%]
介護・世話の放棄・放任	高齢者本人と虐待者の人間関係 [55.2%]	虐待者の性格や人格 [55.0%]	高齢者本人の性格や人格 [43.0%]	配偶者や家族・親族の無関心 [34.6%]	高齢者本人の認知症による言動の混乱 [33.0%]

